






# 東京ゼロメートル地帯における排水施設の耐水化の概要

	下水道ポンプ場	排水機場(河川)	排水機場(港湾)
対象外力	河川堤防の破堤は想定していない 計画降雨規模としては、時間雨量50mmを対象	河川堤防(外郭堤防)の破堤は想定していない。 計画降雨規模としては、時間雨量50mmを対象	防潮堤の破堤は想定していない 高潮と降雨の重合による内水湛水(台風時降雨50年確率)を対象
耐水化の内容	ポンプ所等の設備床レベルと周辺の地盤高との差が1.0m未満のポンプ所については、電動機室に雨水が流入しないように、止水板や防水扉などを設置 沈砂池・ポンプ室の浸水に対しては、設備床レベルより下の開口部に対して、防水扉などを設置	施設の水密性を確保している高さについては、当時の河川の計画護岸高さ以上としている。 木下川、小名木川、清澄排水機場は、江東内部河川の計画護岸高T.P.+2.5 (AP+3.60) m以上(当時) 新川排水機場は、新川の計画護岸高T.P.+2.9 (AP+4.00) m以上(当時)	機械設備は、計画内水位に余裕を加えた水位 T.P.+1.9 (A.P.+3.0) mに対して機能を確保 排水機場の建屋は鉄筋コンクリート構造とし、水密性を確保
その他	現状においては、朔望平均満潮位T.P.+1.0 (A.P.2.1) m以上に対して、耐水化を確保している。	ポンプの設置高さについては、ポンプの能力(規模、揚程高等)で決定されている。	主排水ポンプの設置高さは、T.P.+5.4 (A.P.+6.5) mであり、計画高潮位T.P.+4.0 (A.P.+5.1) mより高いため、浸水の危険性は低い

-  排水機場(河川)
-  排水機場(港湾)
-  下水道ポンプ場
-  水門
-  閘門

— は、T.P.-0.1 (A.P.+1.0) m (ほぼ海拔ゼロメートル)の等高線

